

よびかけ

1923年9月の関東大震災では、6000人におよぶ朝鮮人が虐殺されたことは知られていますが、同じ時に東京、神奈川近辺で、700名を超える中国人労働者が、軍隊・警察、自警団などの民衆により虐殺されたことはほとんど知られていません。中国人は、現在の東京都江東区大島町附近で、9月3日、朝から夜にかけて集団虐殺され、また横浜周辺など各地でも虐殺されています。労働者の権利擁護に奔走していた「僑日共済会」の責任者である留学生の王希天は、9月12日、戒厳軍将校に密殺されました。

事態を重視した中国政府は、王正廷を団長とする調査団を派遣し、日本政府に「加害者の処罰、被害者への補償、中国人の安全確保」を要求しました。日本政府は、中国人虐殺の事実を全力で隠ぺいする一方、遺族への補償を閣議決定し、一旦は日中政府交渉まで行いました。しかし、交渉は百年近く「中断」したままとなっています。

日本政府は、いまなお、関東大震災下の朝鮮人、中国人虐殺の事実を隠し続けており、「なかった」ことにしたいようです。東京都小池知事もまた、虐殺の事実を曖昧にし、追悼式へのメッセージをとりやめました。朝鮮、中国への蔑視と敵視が煽られ、公的な差別がまかり通っています。

ヘイトクライムがいつそう凶悪化する、関東大震災から100年目の2023年。私たちはこの朝鮮人、中国人大虐殺、さらに社会主義者、労働組合活動家などの虐殺という凄惨な歴史をいまいちど想起せざるをえません。戒厳令下で行われた虐殺の真相究明と、これに関わった軍、警察の責任と自警団など民衆の責任を明らかにし、補償を実現して被害者の尊厳と名誉を回復するときです。中国人被害者遺族も1924年政府決定に基づく賠償の実現等を強く求めています。

日本弁護士連合会は2003年に「国は関東大震災直後の朝鮮人、中国人に対する虐殺事件の被害者、遺族に対し、その責任を認めて謝罪すべきである」「虐殺の全貌と真相を調査し、その原因を明らかにすべき」と

勧告しました。首相を長とする中央防災会議も「過去の反省と民族差別の解消の努力が必要（2008年報告書）」と確認しています。私たちは一世紀にわたり隠され続けてきた真相を歴史的事実として明らかにし、責任ある解決をもって隣国との平和で友好的な関係を築き、共生する日本社会を実現できるようともに活動しましょう。

2023年1月